

令和7年度 一宮小学校 総括評価表Ⅱ（豊かな心の育成）

自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
進んであいさつをした り、時と場 や相手に応 じた、正しい 言葉づかい で話したり する習慣が 身に付いて いない児童 がいる。	Ⅱ) 豊かな心の育成 自他を大切にすることの育成 ① 体験活動や人々との交流を織り込んだ、多様な教育活動を展開する。 ② ポジティブ行動支援を念頭においた、組織的な生徒指導体制の充実を図り、いじめ・不登校等の問題に全職員一丸となって取り組む。 ③ あいさつの習慣や、正しい言葉遣いの定着と、道徳教育の充実を図る。 ④ ボランティア活動や異学年活動などを通して、互いを支え、励まし合い、互いを大切にする仲間づくりを進める。	<p>評 価 指 標</p> <p>①-1 保護者アンケートによる「体験や交流学習の取り入れ」の達成率80%以上 ①-2 体験学習や交流活動を毎学期実施する。</p> <p>②-1 保護者アンケートによる「相談体制」の達成率80%以上 ②-2 保護者アンケートによる「明るい学校づくり」の達成率80%以上</p> <p>③ 児童・保護者アンケートによる「あいさつ、正しい言葉づかい」の達成率80%以上</p> <p>④ 異学年活動を年間3回以上、わくわくタイム月1回以上、ボランティア活動を毎週行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 体験学習や交流学習の取り入れの達成率95%で指標を上回った。 ①-2 各学年ともに発達段階に応じて、体験や交流学習を行うことができた。</p> <p>②-1 相談体制については、達成率100%で指標を達成することができた。 ②-2 明るい学校づくりについては、達成率100%で指標を達成することができた。</p> <p>③-1 児童は83%、保護者は76%となり、児童は指標を上回ったが、保護者は、指標を下回った。</p> <p>④ わくわくタイムは月1回以上は実施できた。全校ボランティアは天候によってできないことがあったが、それに代わる異学年の活動を実施することができた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>①体験学習や学年を超えた交流において、工夫を凝らした取り組みがなされている。少人数校ならではの利点を生かし、今後もこうした活動を継続してほしい。</p> <p>②少人数ゆえの難しさもある中で、担任に限らず全教職員が児童一人ひとりの状況を把握してくれている点は非常に心強い。今後も学校が一丸となって、子どもたちと深く関わっていくことを期待する。</p> <p>③顔を合わせるとすぐに挨拶が返ってくるのは、非常に気持ちが良い。挨拶は人間関係の基本であり、校内はもちろん、対外的にも実践できている点は評価できる。この素晴らしい習慣を今後も大切にしていきたい。</p> <p>④全校児童が互いをよく知る家族のような環境には、遠慮なく話せたり、相手を気遣ったりできる良さがある。一方で、親密さゆえに言葉遣いや話す内容が乱れるといった課題も見受けられる。縦割り班活動などで高学年が低学年に優しく接する姿は非常に微笑ましい。こうした上級生の自覚や思いやりを、さらに伸ばして欲しい。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①については、発達段階に応じた体験活動や交流学習を実施することができた。今後も、体験や交流学習を継続していきたい。</p> <p>重点目標②については、指標を上回ったが、今後とも児童・保護者の信頼が得られるよう、より深く児童一人一人を見つめ、指導にあたるとともに、全校的な共通理解や指導体制の構築をより強化できるように努めたい。</p> <p>重点目標③については、社会的自立を見通し、あいさつや場に応じた言葉づかいの指導に全教職員で力を入れていきたい。</p> <p>重点目標④については、今後も継続して活動し、思いやりの心を育ていきたい。</p>	<p>今後の改善方策</p> <p>①体験学習や異学年交流学習については、十分にできていた。学年の発達段階に応じた体験学習や交流学習を今後も進めたい。バスの減便等により、公共交通機関の利用が難しくなったが、体験の幅を狭めることなく、学習活動の充実を引き続き図りたい。</p> <p>②児童理解をさらに深め、共有すると共に、相談体制を充実させていくことで、いじめ・不登校等の問題を未然に防ぐことができるよう努めたい。</p> <p>③気持ちのよいあいさつや言葉づかいができたときには賞賛するなど、教職員がポジティブな行動支援をこころがけていきたい。また、低学年から継続して場に応じた言葉づかいの指導を全教職員で共通理解し、取り組みたい。</p> <p>④おおむね充実した活動ができている。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じたためあてをもたせることや、活動の中に振り返りを取り入れ、友達の良い面を見つけて伝え合う機会を作ることを通して、児童に思いやりの心を育てていきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 地域の自然や歴史に関する体験活動や、縦割り班活動、地域の保育所、近隣小学校との交流の充実や、近隣中学校との連携を図る。 ①-2 教科書や読み物資料を有効に活用し、道徳教育の充実に努める。</p> <p>②-1 児童一人一人の実態把握に努め、全校的な共通理解や指導体制の構築を進める。 ②-2 保護者への連絡を密にし、教育相談や教育調査等を重視した体制づくりを進める。</p> <p>③-1 あいさつを教職員が進んで行い、気持ちのよいあいさつや返事ができる学校づくりを進める。 ③-2 学校生活全体を通して、丁寧な言葉づかいを指導する。 ③-3 家庭や地域と連携し、あいさつや正しい言葉づかいをしようとする意欲を高める。</p> <p>④ 異学年交流（縦割り班活動やライブラリーDAYなど）やボランティア活動等を年3回以上実施し、よりよい人間関係を築き思いやりの心を育てる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 自然や地域・歴史に関する体験活動を進めてきた。オリエンテーリングや町探検等の活動や、保育所や近隣小学校との交流を図った。 ①-2 教科書や読み物資料を活用し、児童の実態に応じて、ロールプレイや教員が作成した資料等を取り入れ道徳教育の充実に努めた。</p> <p>② 学校生活アンケートの結果を分析し、児童の人間関係や生徒指導上の諸問題について全校的に共通理解を図り、全教職員で指導にあたってきた。また、職員室で児童の様子について気がついたことは、終礼や職員会などでその都度情報を共有し、指導方法についても全職員で検討ができた。</p> <p>③-1 教職員が率先してあいさつや丁寧な言葉づかいを行い、継続してあいさつの大切さや場に応じた言葉づかいを指導してきた。</p> <p>③-2 話し方のモデルや正しい言葉づかいの例文を校舎内の児童の目に留まるところに掲示し、丁寧な言葉づかいができるように努めてきた。</p> <p>③-3 地域の防災訓練、読み聞かせ、子どもカフェなどの際には、進んであいさつができる児童を賞賛し、意欲を高めた。</p> <p>④ 校内での活動を効果的に取り入れて、様々な異学年交流の活動を通して、思いやりの心を育ててきた。</p>			

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった